

第1学年 「きいて ほしいな」

5 本時案 (3/3)

- (1) ねらい 経験したことをみんなの前で、ていねいな言い方で話すことができる。話し手の方を見て、最後まできちんと聞くことができる。
- (2) 準備物 経験したことをかいた絵カード、おじいさん・おばあさんの絵カード
- (3) 学習過程

第2学年 「文をつくろう」

5 本時案 (3/3)

- (1) ねらい 主語と述語のつながりに気をつけて、クイズ「わたしはだれでしょう」の問題文を作り、1年生に発表することができる。
- (2) 準備物 練習問題(文作りゲーム)、問題文の作り方(児童提示用)問題文作成ワークシート
- (3) 学習過程

教師の支援と評価	学習活動・内容	過程	学習活動・内容	教師の支援と評価
○今度訪問する「ふれあいサロン」のおじいさん、おばあさんにわかりやすく話すためには、どのような話し方がよいか話し合い、具体的な話し方のめあてをつかむよう支援する。	1 話し方のめあてを確認する。 ・ていねいな言い方 ・声の大きさ ・話す速さ ・はっきりした発音、発声	つかむ・見通す	1 教科書以外の練習問題(文作りゲーム)に取り組む。 ・主語と述語の正しい組み合わせ	○自分で答え合わせをする前に、作った文を声に出して読む習慣をつけさせ、意味が伝わる文になっているか確認していくよう支援する。
ていねいな言い方で、わかりやすく話しましょう。		調べる	2 学習のめあてを確認する。 ・クイズ「わたしはだれでしょう」の問題文(ヒント)作り ・主語と述語が正しくつながる文 ・3つの問題文(ヒント)	評 主語と述語の正しいつながりの文を作ることができているかどうか確かめる。 (パソコン、カード) ○問題文作りのイメージを持たせるためにチャレンジタイムを使って、事前にクイズ「わたしはだれでしょう」を教師が出題しておく。「自分も作ってみたい」という気持ちまで高めておきたい。
○聞き手の方向と話し方のめあてを意識させるために「おじいさん・おばあさんの絵カード」(話し方のめあても提示したもの)を廊下に用意しておく(4カ所)。 ○自己評価(話し方)カードを用意し、3回話した児童は自分の話し方をチェックさせる。(◎○△)	2 各自で話し方の練習(3回)をする。 ・絵カードをもって ・聞き手の方を向いて ・話し方のめあてを意識して ・自分の話し方のチェック	調べる	3 問題文(ヒント)作りに取り組む。 ・クイズの答え(出題する問題)の決定 ・出題する問題の特徴(いろいろな観点)考察 ・主語と述語に気をつけた文作り ・3つの問題文(ヒント)の順序決定	論理的な思考力や表現力が発揮される場面 ○「一人学び」がスムーズに進むように、問題文(ヒント)の作り方を提示しておく。 ○問題文作成ワークシートに参考となる観点(場所、形、色、大きさ、素材、模様、用途)を示しておき、その中から選べるようにしておく。 ○1つめのクイズができたら、2つめ、3つめのクイズ作りに挑戦していくよう励ます。
○聞き手は、話の途中で言葉をはさまないで、最後までしっかり聞き、はじめと終わりには拍手をするなど、児童に「自分が話しやすい」「自分がそうしてもらえるとうれしい」と感じる聞き方について考えさせたい。	3 聞き方のめあてを確認する。 ・話し手の方を見て、最後まで ・はじめと終わりには拍手をして ・「いつ」「どこで」「だれと」「何をした」「どう思った」等、大事なことを落とさず	調べる	4 1年生にクイズ「わたしはだれでしょう」を出題する。	評 ヒントの文の主語・述語が正しく使われているか確かめる。(ワークシート) 評 進んでクイズ作りに取り組んでいるか確かめる。(発言・態度)
話し手の方を見て、最後まできちんと聞きましょう。		高める		
評 経験したことを相手にわかるように話すことができたか、また、話し手を見ながら、話を最後まで聞くことができたか、発表の様子から確かめる。(発言・態度)	4 経験したことをみんなの前で、ていねいな言い方でわかりやすく話す。	高める		
○友だちの話のよいところを見つけられる児童は、「聞き上手」であることを伝える。	5 友だちの話を聞いて、よいところを発表する。	高める		
評 進んで答えたり質問したりしてクイズに参加しているか確かめる。(発言・態度)	6 2年生のクイズ「わたしはだれでしょう」を聞いて、答えを考える。	高める		